

平成27年10月22日

蕨市長 頼高 英雄 様

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る市民懇談会

会長 林 大樹

**（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略（案）
に対する意見について**

本懇談会は、市長より委員の委嘱を受けて、平成27年8月8日から10月17日までの全3回にわたり（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略（案）について議論を重ねてきた。

（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略（案）は、概ね、本懇談会での議論を踏まえた内容となっており、出生率の向上と子育て世代の定住促進に向け、本戦略で掲げる取り組みを着実に推進されたい。

なお、議論の過程で出された意見については、別添の「人口ビジョン及び総合戦略の全般に係る意見」及び「総合戦略の基本目標に係る具体的意見」に整理したので、施策・事業の推進にあたっては十分に配慮・検討されたい。

別添

1. 人口ビジョン及び総合戦略の全般に係る意見

(人口ビジョン全般について)

- 人口を維持するという目標に向け、具体的な施策・事業を総合戦略などで明確に示し着実に推進していくことが重要である。その際、若い世代の定住促進のみならず、蕨市の特性に鑑みて、超高齢化社会への対応や外国人も住みやすいまちづくりなどにも、十分配慮していく必要がある。
- わが国全体が人口減少局面に入っている中、蕨市の人口だけが増加していくとは考えにくい。蕨らしさを活かし、他市との差別化を図りながら、急激な人口減少を避け、将来にわたって魅力あるまちの中で、豊かに暮らし続けられる循環を生み出していくことが重要である。

(総合戦略全般について)

- コンパクトな蕨だからこそ、できることがあるはずである。近隣市や東京圏の他自治体と同様の施策・事業だけでなく、蕨ならではの地域資源を活かしあるいは創ることで、蕨らしい戦略としていけるとよい。
- 地域の実情を踏まえながら、6つの基本目標に優先順位を付けたり、内容に濃淡を付け重点を明確化するなど、メリハリのある戦略とすることを検討されたい。また、市が特に力を入れる点の「見せ方」などを考慮して策定してほしい。
- 総合戦略に掲げた施策・事業を効果的に推進するための体制づくりが重要である。市内のみならず、例えば創業支援や空き店舗の有効活用など、市内の各種団体や事業者と協働して推進していくことが求められる。
- 広域連携の視点を持つことが重要である。蕨市は市域がコンパクトで市の財源にも限りがあるので、市民の生活利便性に配慮しつつ、近隣市、あるいは地方都市と連携しながら、互いに補完し合って発展していけるとよい。

2. 総合戦略の基本目標に係る具体的意見

(基本目標Ⅰ 安全で安心して暮らせるまちについて)

- 蕨市は人口密度が高く建物が密集しているため、地震後の火災などが懸念される。先進的な取り組みを実施するなど、日本一安全で安心なまちをアピールし、次の世代につなげていくことが大切である。
- 蕨市の犯罪発生率は県内でも高く、市のイメージダウンにもつながりかねない。犯罪が起これにくい環境づくりについては、さらに力を入れていく必要がある。

(基本目標Ⅱ 豊かな個性を育み子どもたちの未来輝くまちについて)

- 少子高齢化の進行に対応していくためには、子育て支援や教育に注力するなど、若者を惹きつけるような魅力あるまちづくりが必要であり、例えば待機児童ゼロを実現して広くPRする、ファミリー層向け住宅を増やす等の取り組みが求められる。
- 保育所の充実のみならず、多様なニーズに応じた子育て支援の仕組みづくりが必要である。施設の充実だけでなく、例えば地域や学校などとの連携による子育てについての交流の場づくりや情報交換の場づくりなど、多様な選択肢があってもよい。

(基本目標Ⅲ みんなにわたたく健康に生活できるまちについて)

- 高齢者の活躍の場を増やし、会社を退職した人たちなどの社会参画を促進すれば、健康寿命の延伸にもつながる。高齢化を前向きに捉えた取り組みも重要である。
- 地域活動の担い手確保が課題であるが、元気なシニア世代が地域活動に参画すれば地域の活性化につながっていくので、今後、さらに高齢者の健康づくりが重要となる。

(基本目標Ⅳ にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまちについて)

- 蕨らしさを活かしながら、雇用や産業振興に結びつくよう具体化していくことが大切である。例えば中山道蕨宿、成年式、わらびりんご等の地域資源を蕨ブランドとして活かしながら、都市としての蕨市をブランド化していくことが考えられる。
- 雇用創出と事業者の経営安定が課題となる。蕨市は市域がコンパクトであるため、企業誘致が難しいという条件下にあるが、例えばテレワークなど自宅で就業できる環境づくりの促進や、ITを活用した就業・起業の促進、女性の力を活かせる環境づくり等に取り組むことが重要である。
- 空き店舗の活用については、事業者・NPOなどと協力し、創業支援の場とするなど、今後も継続的に検討する必要がある。また、商店街のにぎわいづくりに向け、子どもや高齢者が集まれる場所を設けることも考えられる。

（基本目標Ⅴ 快適で過ごしやすい環境にやさしいまちについて）

- 子育て世代の流入・定住を促すため、三世代向け住宅を増やすことは有効であろう。その他、空き家等の有効活用や住宅取得支援なども考えられる。
- 市民生活の利便性と安全性を確保するため、公共交通の利便性の確保や、生活道路の安全性向上を進めることが重要である。
- 行政のあり方については、窓口対応などソフト面だけでなく、施設のハード面の改善についても検討していく必要がある。

（基本目標Ⅵ 一人ひとりの心でつなぐ笑顔あふれるまちについて）

- 市民参画の仕組みや仕掛けについて、さらなる充実を図っていく必要がある。そのためのコミュニケーションの場づくり、ボランティアなど地域への関心を高める取り組み、若者を対象とした取り組みなどの充実が考えられる。
- 蕨市は外国人の割合が高いことから、外国人と触れ合う機会を増やすこと、イベントを通じた外国人への地域参画の呼び掛け、マナーやルールなど情報の共有等の取り組みが重要と考える。行政情報の多言語化など、外国人も住みやすいまちづくりに努めることも必要である。